

なかしゅんべつ

NAKASYUNBETU

2008
JULY

7

VOL 366



各地区小学校運動会

6月に入り各地区の小学校で運動会が行われました。
当日は各地区とも元気いっぱいグラウンドを駆ける子供達の姿が目立ちました。

地域一丸となつて 先行き不透明な難局を乗り越えろろう



第三十四回中春別農業協同組合通常総会（正組合員二百七十三人）が六月五日、中春別
団地センターにおいて開催されました。

総会に先立ち優良組合員、良質乳生産組合員、経営移譲感謝状授与者、新規就農激励状授与者に対してそれぞれ表彰が行われました。

開会にあたり竹田組合長より「国内の近況でありませんがわが国の経済は、緩やかな景気の拡大基調が継続すると見込まれておりますが、サブプライム問題や原油価格の動向が内外経済に与える影響などに留意する必要がありますが、先行きについては、依然として樂觀できない状況にあります。

また、北海道経済にあつては、景気はやや弱めの動きとなつており、道財政の事情からも、公共投資などが減少傾向にあります。地域主権型社会の形成に向



けて、道州制特区が推進され、現在、根室管内にも係つて、支庁制度改革が議論されているところであり、将来展望に不安の残る状態にあります。

農業を取り巻く情勢においてもWTO農業交渉の決着が遠のいた感もあります。特に日豪EPA交渉の行方が懸念され、高関税品目を多く抱える北海道農業

並びにこの地域の酪農・畜産にとつては、予断を許さない状況となっております。

酪農・畜産にあつては、世界的なバイオエタノール需要の急増や石油価格の高騰に伴い物財経費が上昇、特に配合飼料の高騰が酪農・畜産経営に大きな打撃を与えることは、過去に類をみないものであり、国民的規模で理解を求め、諸対策を講じる必要があります。

このような状況の中で、酪農情勢は、牛乳乳製品の需要環境としては、国内における飲用需要は依然として停滞傾向であります。バターや生乳使用飲料の需要が伸張し、中国・東欧諸国の経済成長により、乳製品需要が一気に高まり、一転し

て品薄状態が生じる事態となりまして。

減産型でスタートした生乳計画生産も、乳業大手三社が根室管内を始めとして、道内にチーズ工場の新設や増設を行い、乳製品の国際価格の上昇もあつて、増産基調となつたことは、我々酪農家にとつては、喜ばしいこととであります。

然しながら、これに伴つて三十年にわたり当地区の牛乳集荷の拠点でありました「別海中継クーラーステーション」が三月をもつて廃止となり、余儀なく配乳変更が行われたところですが、引き続き円滑な集荷体制を維持するため、別海町の特段のご理解とご協力のもとに、この春、ミルクローリー車を一台導入する運びとなりました。お礼を申し上げる次第でございます。

経営環境としては、配合飼料、原油価格の高騰による急激な生産コストの上昇は外的要因によるものであり、これは、生産現場の努力の範疇を越えたものであります。

事態を重くみた政府は、

例年より一カ月早く畜産物価格等の議論を進めた結果、平成二十年度の酪農畜産対策・価格対策については、加工限度数量は三万トン削減され、百九十五万トンとなつたものの、加工原料乳生産者補給金は、一円引上げの十一円五十五銭、また、バター・脱脂粉乳の国際相場上昇に伴い、加工原料乳の需給逼迫が想定されるため、外数として、最大十二万トンにつき補給金単価と同額の助成が決定したところであり

ます。

なお、メーカーとの用途別原料乳価につきましては、プールで五円十銭の値上げとなつたことは、ご承知のとおりであります。

また、価格関連対策においても増額をみましたが、今なお続く、配合飼料の高騰を受け、現在、飼料対策に絡めて経営安定対策を検討中であることは、新聞報道のとおりでございます。

当然、このことは、肉牛生産農家にとつても大きな打撃であり、輸入牛肉が国内市場に与える影響も気になるところですが、それよりも、

生産コストの上昇により厳しい経済状態に直面しており、牛肉も含めた地場生産物の付加価値づくりを模索していくことが重要と考えます。

消費者の求める「食の安全・安心」の確保から、バルククーラーの乳温管理システムの構築が一昨年より全道的に着手され、自記乳温計の設置が全戸完了しておりますが、ポジティブリスト制度やトレサビリティについては、組合員にとつては、お忙しいなかであつて、大変とは存じますが、これら一連の取組みが、生産・流通段階の「安全・安心」を、消費者に理解して頂く近道であり、確実に取組む事が必要と思っております。

このような時代背景の中で、安定した酪農・畜産を営んでいくためには、まずは、自らの原点、理念、強みを見失うことなく、地に足を着けて着実に実践していかなくてはならないと同時に、先人達の汗と努力の結晶である「中春別酪農」の生産資産「土・草・牛」の生産基盤に、新たな付加価値を付け、次

の世代に継承していく事が肝要であると考えております。

一方、JAを取り巻く情勢は、「規制改革会議」が発足し、「規制改革推進のため三カ年計画」が出され、認定農業者制度の見直しや農地制度の改革、農業分野における民間金融機関の参入促進、また、「農協経営の透明化・健全化」として、独占禁止法への対応強化や的確な情報開示など、幅広い提案がされているところであります。

このように、中小規模のJAにとつて厳しい内外環境へ適応するため、ここ数年、広域合併は着実に進展し、大規模な合併JAの誕生が相次いでおります。

当JAについては、昨年度、南根室五JAの合併から離脱いたしました。将来的には、改めて合併論争が沸いてくると思っておりますので、それに対する準備も徐々に進めていかなければならないと、考えております。

本年度は、平成十九年度を初年度とし、平成二十一年度を目標とした、「第七次

中期経営計画」の二年目ですが、重点事項であります「農家経営の再構築」を第一としながら、「組合財務基盤の強化」に対する具体的な取り組みとして、出資の増額を提案するものであります。

厳しい経営環境のもとではあります。組合員あつてのJAであり、健全なJAがあつてこそ、組合員への支援もできると思っておりますので、どうか、ご理解を頂き、二層の農協結集、農協利用について、お願いするところでございます。

生産乳量も、組合員・組合員ご家族皆様の弛まない努力によりまして、平成十九年度につきましては、過去最高の十一万二千トンを超える実績となり、補給金を含めた販売高は、百億円以上の成果を上げることが出来ました。心より感謝と敬意を表する次第であります。そして、各農事組合長を中心に、地域組合員の多大なるご理解とご協力によりまして、本日、こうして議案の提出が出来ますことを、感謝申し上げます。ところであります。

第34回中春別農業協同組合 通常総会

平成十九年度の事業成果につきまして、計画を上回る実績を挙げることができました。後ほど、議案の中でご説明させていただきますが、磐石で強固なJA財務構築のため、自己資本の増強に努めなくてはなりません。一昨年の決算で大きく内部留保を取崩した経過も踏まえ、余剰の大部分を目的積立に向けて、組合員の皆様にご理解をお願いするところであります。

組合員の生産基盤の充実に力を注ぎ、外的要因に左右される今日の酪農ですが、怯むことなく立ち向かい、一歩一歩着実に健全な酪農経営、並びに農協運営を築き、「活気と潤いに満ちたゆとりある中春別」の振興に、全力を注ぐ所存でございます。どうか、組合員皆様のご理解とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

結びとなりますが、行政を始め、系統連合会、並びに各関係機関に対しまして、今後とも、より一層のご指導とご支援を心からお願ひ申し上げます。本総会開会にあたってのご挨拶とさせ

て頂きますと挨拶があり、引き続き来賓を代表して北海道根室支庁産業振興部農務課長・得地秀幸氏、別海町長・水沼猛氏、ホクレン農業協同組合連合会中標津支所支所長・石崎裕氏より祝辞をいただきました。議長には中春別地区・小原義男氏、豊原地区・齋藤洋氏が指名され、議事へと進行し議案第一号から議案第十一号ま



で提案され、全議案可決承認されました。

閉会にあたり小湊副組合長より、「十九年度の私達の経営を取り巻く情勢につきましては、事業報告並びに



開会挨拶、また、ご祝辞などでも述べられていますように、かつて私達が経験のしたことのない生産構造の転換を迎えることになったところでございます。特に新興(国)の需要拡大、バイオエタノール、そして投機マネーの流出、輸出国の自然災害などで世界的に原油そして穀物価格が上昇し、私達の生産に関わる諸資材費が全て上昇というかたちの中で、酪農経営に大きく直撃したところでございます。

昨年引続き、食料、飼料、燃料の引上げが今後も続くと予測されており、今後も高値の推移の中で、動くという事は予断を許さない状況下であることもさげられません。加えて、化学

肥料におかれましても、輸出国の資源枯渇ということ、大幅な値上げも予想されており、このような不透明な状況ではありませぬが、組合員の皆様方とこの難局を乗り越えいかなければなりません。今年度の事業達成に向けまして、役員一体となり取組んで参りますので、今後組合員の皆様方には、更なるご理解とご協力をお願いするところでございますと挨拶があり、午後十二時四十七分閉会となりました。

優良組合員表彰者

- 吉川 光彦(豊原地区)
- (有)アークスファーム(美原地区)
- 原内 修(中春別地区)
- 原内 隆(中春別地区)



乳質改善・良質乳生産組合員表彰者

- 木原 誠(豊原地区)
- 久保 義則(豊原地区)
- 菅原 美香(豊原地区)
- 橋本 嘉篤(豊原地区)
- 経営移譲感謝状授与者
- 小湊 寛(中春別地区)
- 大竹 幸男(中春別地区)
- 石森 典夫(中春別地区)

新規就農激励状授与者



増産基調でスタートしたが、生産コストの高騰で厳しい酪農畜産経営



5月22日、中春別酪農対策協議会（会長・望月英彦）では、団地セントラートレーニング室において、竹田組合長、西原町議の来賓出席の中、第33回通常総会を開催いたしました。

開会にあたり望月会長より、平成十九年度は、北海道酪農基盤維持対策の二年目でありましたが、乳業大手三社が根室管内を始めとするナチュラルチーズ系工場の新設や増設を次々と着手し稼働し始め、乳製品の国際価格上昇もあり、減産型から増産基調のスタートであったこと、また、配合飼料、原油価格等の高騰による急激な生産コストの上昇により、酪農畜産経営はかつてない厳しい状況であったと述べました。

円十銭の引き上げで、年度内に決定されたが、生産費をカバー出来ないことから、緊急経営安定対策の実現に向けた要請運動と、酪農畜産物の需要回復を重点課題として活動を展開したこと、昨年に引き続き、牛乳・乳製品の消費拡大を目的とした消費者代表（生活クラブ生協）との率直な意見交換を実施し、酪農現場の実情も含め、今後につながる情報交流が出来たことを述べました。

また、バルククーラー乳温管理システムの構築が一年前より全道的に着手され、自記乳温計の全戸設置による町集落からの補助受入母体として推進したこと、道内における集送乳合理化に伴う受乳施設変更が予想された中、配乳変更後の円滑な運送体制を整備すべく、ミルクローリー車導入に向けた要請活動を農協と協調し取り進め、一車の導入となつたことを述べました。

中央と道への要請内容を仕分けする必然性を認識し、四年目となる道農政部との意見交換では、主要担当官と意見交換並びに提言を実施したこと、中央要請と農水省との意見交換については、常任委員の積極的な参加により実施したことを報告しました。

全道・地区酪対に関しては、組織討議において積極的に検討し、各地区代表選出での中央要請にも協調して取り組みをしたこと、今般決定された政策価格対策の内容に関して、一定の評価をする見方も他方ではあるが、現状を捉えた中では、中間総括と位置付け、粘り強い追加対策の運動展開が肝要と総括し、日頃より会員各位の特段なるご理解と、ご協力に感謝を申し上げます、議事へと進行了りました。

議長には豊原地区・井上忠芳氏が選出され、議案第一号から五号まで全て可決決定されました。

平成二十年度の新役員構成は次の通りです。



中春別酪農振興会(会長・小原義男)では、放牧による低コスト酪農の技術を学ぶ為、6月6日別海の穴吹牧場の視察研修を実施いたしました。



低コストによる酪農技術を学ぶ

別海町 穴吹牧場 視察

当日は時折小雨交じりの肌寒い天気ではありましたが、会員と関係職員合わせて二十七人が出席いたしました。

●中春別酪農振興会

穴吹氏は東京の公務員の家庭で育ちましたが、生き物が好きで動物の専門学校へ進学し、卒業後北海道で酪農実習を体験しました。

そこで、酪農に魅せられて本格的に酪農の仕事がしたくなり、酪農ヘルパーになりました。

その後、平成六年に現在地へ入植したということです。入植後は負債処理と利益の追求に明け暮れる日々疑問を抱き、もつと楽しい酪農をしようと思い始めました。そんな時、SRU別

海という団体が、ニュージーランド在住のコンサルタントの指導や助言を受けながら、土のミネラルバランスを取って草地の生態系を改善し、牛を健康に飼育することを目的に活動していることを知り、平成十年に入会しました。

現在はSRU別海の代表として十六人の会員と共に、毎年土壌分析を行っていきます。その成果として白クローバーの割合や草地の密度が非常に高くなり、肥料費の減、乳牛の事故率の低下といった効果も表れてきました。

最も力を入れている取り組みは、気候と放牧草の栄養価の高い時季に分婉するよう受精に取り組んでいきます。牧草の栄養価を向上させることにより、個体乳量が放牧でも八千kgの水準に

達していることに、とても感心いたしました。昼食後は根室北部産業廃棄物処理場を視察して、帰路に着きました。



飼料の高騰による厳しい酪農情勢で求められている低コスト酪農を直に学び、とても有意義な研修でありました。

去る六月十六日、晴天にも恵まれ参加者は、振興会会員と家族、普及センター、サポート女性、農協職員で総勢四十五人の参加となり初夏の景色を眺めながら大型バスで一路中標津町に向かいました。視察先は雪印乳業(株)なかしべつ工場と当幌の安田牧場です。

最初に雪印乳業(株)中標津工場視察では、スライドによる説明と工場内を視察させて頂きました。四月一日の暴風雪の中、標津、中春

別、斜里からの搬送開始となり大変苦労されたということです。当JAの生乳生産量の七〇%が雪印乳業(株)なかしべつ工場、三〇%が

雪印乳業(株)別海工場に搬送されており。なかしべつ工場では一日八百トンの生乳年間約二十五万トンの生乳を処理をしています。最大

現地視察勉強会を開催



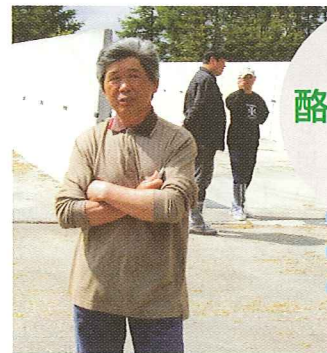
処理能力は六十万トンということでした。
工場内の視察は帽子と白衣を着用し、手洗いアルコール消毒を行い、厳重な消毒体制がとられていました。チーズの製造についても、

金属探知機、X線による異物混入検査により安心安全なチーズが製造されていました。工場視察の後、ゴルダーチーズを試食しながらチーズの種類などの勉強を致しました。今年、凍害に強いマメ科牧草ルーサンのケレスを構内に植えるので、時々見に来てほしいとの事でした。

昼食は福住において美味しく頂きながら、会話も盛んにされ和やかな中での一休み。

当幌の安田牧場に移り、牧場の景観のすばらしさのため息が出るほどでした。昨年、全道の乳質改善大賞を受賞されております。経営主の安田正嗣さんは、一昨年から経営をまかされておられ、当日は利用組合で機械の調整のため若干草刈など行っていて、説明には父親の稔さんに対応して頂き

豊原酪農振興会視察



ました。採草地六〇・五ha、コーンは二十年以上RM八十五日を作付けしており、コーン畑一五・

五haでマルチと露地栽培のうねが交互に播種されていますが、五月二十日の大風の影響でマルチが八〇%吹っ飛んでしまっただという話を聞きました。しかし、マルチと露地栽培とでは、倍の生育差がついていました。

フリーストール牛舎、パーラーはヘリングブーン百一頭の成牛と六十六頭の未経産牛が飼養されており、平成十九年の出荷乳量九百トン、経産牛一頭当り乳量一万七十八kg、体細胞

数五万という素晴らしい成績です。稔さんの説明では、乳質改善の取組みは特別な事をやっておらず、早期発見、早期治療に心がけているとのことでした。生菌数も一千は超えていないとのこと。飼養管理、環境、ストレスに気をつけているそうです。最近、大腸菌の乳房炎が三頭出ており、いろいろ調べた結果、天候の変化が多い事が要因かと思われるとのことでした。

搾乳前必ずサンプルをとってチェックしているとのことでした。

飼養管理については、平成十七年に乾乳舎増築し乾乳前期と後期の群分け管理、カルシウムコントロールにより疾病が少ないとのことでした。授精開始も分娩後四十五日で行っており、授精後六十日で妊娠鑑定を実施しており、分娩後四十五日で発情が来なければフレッシュチェックなど行っており、分娩間隔は一三・二カ月という成績となっ

ており効率の良い飼養管理に感心しました。牛舎周辺は芝生が植えられ、花壇の整備もきちんとされておりました。質問も盛んに行われ大変有意義な視察研修となりました。最後に皆で記念撮影を行い帰路へと向かいました。



六月十四日、共和育成牧場において平成二十年度JA中春別共進会が開催されました。

秋の共進会に向けて 愛牛たちが競う

開催に先立ち、牛魂祭及び農作業安全祈願が行われ、参列者による玉申込奠が執り行われました。

当日は、悪天候により屋内施設での開催となりましたが、昨年同様の五十頭が出品され、日頃から手塩にかけて育てられている愛牛

とあって、各クラスにおいてもレベルの高い共進会となりました。

審査員には、根室市の酪農家である武隈昭博氏があり、厳正な審査のもと丁寧な審査講評に観客、出品者の方々も真剣に聞き入っていました。



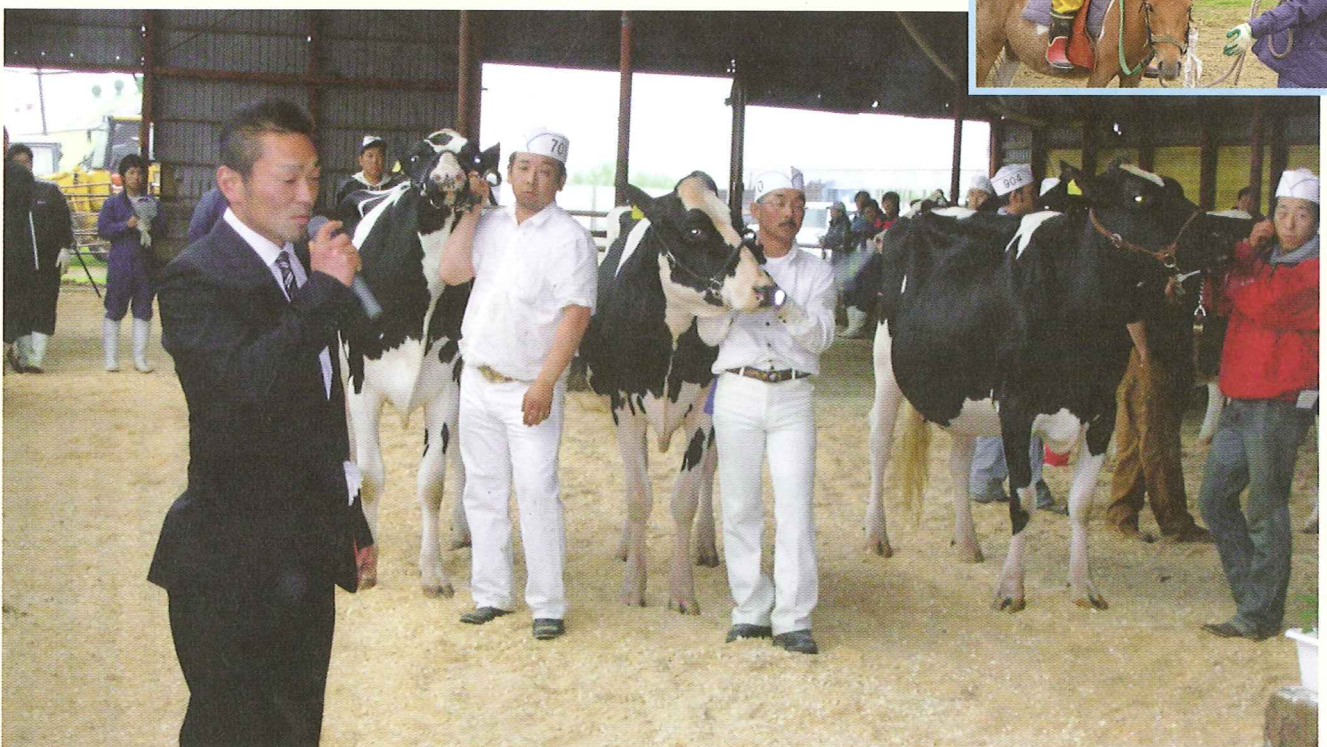
場には、マリイゴールドやサルビアなどたくさんの花が飾られ、鮮やかに彩られた場内で、未經産牛から経産牛の審査。ジュニアリードマンシヨウでは、大人顔負けの真剣な眼差しで牛をリードする子供達



の姿に将来有望な酪農家になる姿勢を感じました。また、女性リードマンシヨウにおいても堂々たる姿で観客を魅了していました。その他には、豊原地区の広沼英治さん、中春別地区の菊地辰夫さんのご協力によりポニーの乗馬コーナーもあり、寒さの中ではありましたが、子供達も楽しんでいました。

共進会終了後は、花の格安販売が行われ終始賑わっていました。

出品された皆さんには、春の共進会シーズンも一段落されたと思いますが、八月下旬から開催されるこれからの共進会での活躍をお祈りいたします。



平成20年度 JA中春別乳牛共進会成績

シニアチャンピオン	YMD インター ダーハム ヒーロー	山田 博和
シニアリザーブチャンピオン	ブルーミング ジャーランチエ クリスチナ ソファイ	妻沼 和紘
ジュニアチャンピオン	YMD ジャツキー ストーム ハニー	山田 博和
ジュニアリザーブチャンピオン	YMD インター ギブソン ウルフ	山田 博和

- 最多出品者 妻沼 和紘(11頭出品)
- 最優秀 ジュニアリードマン 中西 美貴(中西 貴司) 参加者8人
- 最優秀 女性リードマン 竹田真由美(竹田 潤) 参加者8人

平成20年度 JA中春別乳牛共進会成績

順位	名 号	生年月日	父 牛	出品者
1-1	プレザント カリスマ マダム リツキー	H19.9.15	カリスマ(80H8054)	中西 貴司
1-1	YMD インター ギブソン ウルフ	H19.7.13	ギブソン(71H1468)	山田 博和
1-1	MYF ポニー ノミカル ボルトン	H19.5.2	ボルトン(29H11111)	竹田 潤
1-1	ブルーミング ジャーランチエ ローヤル トライジー	H18.12.16	デストライジーン RED(94H848)	妻沼 和紘
1-1	YMD アーリンダ セプテンバー カスタム	H18.9.17	セプテンバー ストーム(200H3067)	山田 博和
1-1	YMD ジャツキー ストーム ハニー	H18.7.16	セプテンバー ストーム(200H3067)	山田 博和
1-1BU	ブルーミング ジャーランチエ クリスチナ ソファイ	H18.7.1	エルヒーローズ(72H1758)	妻沼 和紘
1-1BU	イーストロード エルクカー ステファアニー	H17.4.1	アーロン(11H4400)	馬場 文夫
1-1BU	YMD インター ダーハム ヒーロー	H16.4.2	ダーハム(7H5157)	山田 博和
1-1BU	ライブリー チュンキー サスピション エマ	H13.8.23	エマーソン(7H6250)	山田 晃嗣



美原小学校と豊原小学校は平成二十年度をもって学校を閉校することとなり、今回の運動会が地区で開催される最後の運動会となります。会場には小学校のOB



や地区の方々が応援に駆け付け、会場はいつきに熱気に包まれました。

運動会では大勢の観客の声援を受け、子供たちがマウンドから行進し、開会宣言をした後、百m走など個人競技が行われ、家族に自分の勇姿を見せようと、日頃の練習の成果を十二分に発揮していました。また、各地区の伝統種目も行われ、障害物競走では各地区それぞれアイデアにとんだ障害物を目の前に、綱をかくくつたり、細い棒を渡ったり、子供たちは悪戦苦闘しながらも、ゴールまで走り抜けていました。親子で参加する種目では、二人三脚など、さすが親子だけであつて息もぴつたりで白熱したレース展開となっていました。中には大

人の方が参加する種目もあり、綱引きでは各地区から選出された代表者が綱を握り、相手のチームには負けまいと必死で綱を引つ張っていました。対抗リレーでは、子供たちの声援にこたえまといと、全力で走りぬけていました。参加した父母の方々は昔を思い出し、種目に参加されていたのではないでしょうか。

大人の方々は次の日が筋肉痛で大変だったことと思いますが、参加された父母の方々、お疲れさまでした。



中春別小学校

競技に汗を流し、 笑顔がはじけた運動会

六月八日に美原小学校、豊原小学校で、六月十四日に中春別小学校でそれぞれ運動会が開催されました。





地区最後の運動会に
子どもから大人までいきいき、はつらつ



営農対策情報

根室農業改良普及センター

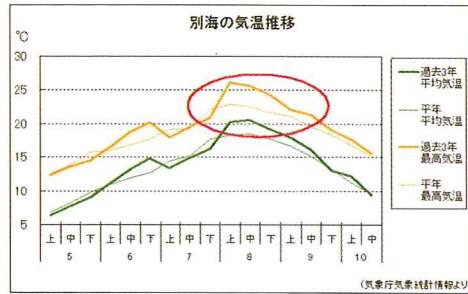
専門普及指導員 齋藤 太香詞

夏の暑さがやってきます！ 暑熱対策は万全ですか？

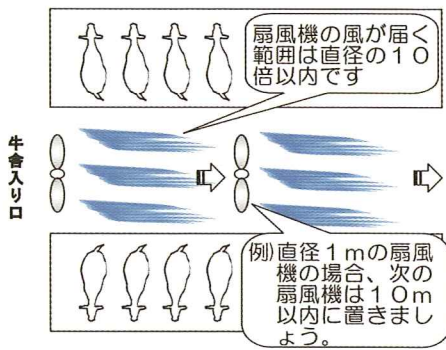
乳牛は暑さに非常に弱く、気温が18℃を越えると暑熱ストレスを感じるようになります。さらに25℃近くになると次のような変化が起こります。

- ・立ちっぱなしになる
- ・呼吸が速くなり、他の行動をやめてでも呼吸を優先させる
- ・体温が上昇し、ホルモン分泌に異常が起こる

これにより、横臥時間の減少、蹄への負担増、反す



1) 夏がやってきました。ここ数年の気温の推移を見ると、根室地方の夏も牛にとっては決して過ごしやすいいとはいえないようです。(図)



窓や扉をはずして舎内の換気量を最大にしましょう。設置型扇風機を使用する場合は、牛舎内を風が走るように設置します。(図2) 牛体に風をあてる場合は、最も汗をかく「首からさ甲部」にあてましょう。

一、換気と送風

う回数の減少など疾病の危険性が高まります。また採食量の低下や繁殖成績の悪化にもつながります。暑熱時の対策 暑熱ストレスを取り除き(牛の体温を上げない)、採食量を落とさない工夫が必要です。

二、日差しをさえぎる

牛をパドックや放牧地へ出す場合、庇陰林や日陰のある場所へ放します。日陰のない場合は日中を避け夜間放牧しましょう。ブルーシートで日陰や庇(ひさし)をつくる、牛舎の窓に寒冷紗を張る(写真1)なども効果的です。



三、新鮮な水を充分与える

暑熱時は発汗により体内の水分がどんどん失われます。「飲みたい時に飲みたい量を飲む」環境を整えましょう。水槽やウォーターカップの吐水量を十分に確保する。水槽、ウォーターカップ

はこまめに掃除する

四、良質粗飼料の給与

し好性の良い高品質な粗飼料を与えましょう。飼槽は清潔に保ち、エサの掃き寄せ回数を増やすなどの工夫も必要です(涼しい時間の掃き寄せは特に効果的です)。消化の良い繊維飼料(ビートパルプなど)の利用も有効です。

五、ミネラル・ビタミンの補給

暑熱時は、ミネラルやビタミンの消耗が激しくなります。特に分娩前後や高泌乳牛などを中心に、様子を見ながらいつもより1〜2割増給しましょう。

暑熱の期間はほんの数カ月ですが、ここをうまく乗り切るかどうかで今年、来年の経営に大きな違いがあらわれます。暑熱対策に取り組み、牛の健康と生乳生産量を確保しましょう！

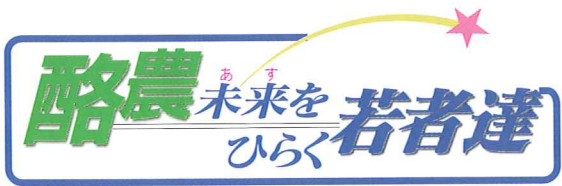
クリーンな生乳生産、を目指して



先月ご紹介しました豊原地区の広沼力也さんのご紹介で、今月は美原地区の長沼徹さんをご紹介します。

徹さんは、昭和六十年七月二十六日、父・克彦さん、母・明子さんの長男として生まれ、美原小学校、中春別小学校を卒業、卒業後は、別海高等学校酪農科へ進学されました。

高校卒業後には、家業に



美原地区 長沼 徹さん(22歳)

就くと同時に、より多くの事を学ぶため別海高等学校専攻科へ進学されました。卒業後、本格的に家業に就かれ今年で五年目になります。

徹さんは、幼いころから牛が大好きで、毎日のように牛舎へ行っており牛舎が遊び場だったそうです。ただ何となく家業を手伝いながら大好きな牛と接していく中で、いろいろなと家業について深く考える事が増えていったそうです。

自らの手で牛乳を生産し、出荷する事によって、食糧を生産していることに誇りを感じるようになり、第一次産業酪農を盛り上げたいとの強い思いから「家業を継ごう」と思うようになっていきました。

「これからは、日々、経験を重ね、そして技術の向上、勉強会などにも積極的に参加して、酪農に関する知識の向上を図り、立派な跡継ぎを目指している最中」と普段見せないような真剣



な顔で、話してくれました。

趣味は、ダーツとのことです。ほぼ毎日のように腕前を磨いているそうです。今は、牧草収穫作業の真つ最中ということもあり、なかなか行けないそうです。

今後の目標は、クリーンな生乳生産、ゆとりある暮らしを目指してがんばりたいそうです。

次回は、徹さんの紹介で、中春別地区の平井優一さんをご紹介します。

色とりどりの花で花壇を飾ろう

● 女性部花壇整備

女性部では、毎年部員の皆さんと一緒に花と緑にかかわる活動として、一年を通し美しい花壇づくりを行っております。



六月三日暖かい日差しの中、女性部メンバーが農協事務所前花壇に色鮮やかな花を植えました。午前中からの作業にも関わらず二十

二人が参加し、雑草の除去、土おこしを行った後、マリ―ゴールドやサルビアなど植えた花は約二千株。

今後、女性部員の手による草取り等の作業を数回行うなど、心のこもった手入れが続けられます。一年中花が絶えることなく、また季節ごとにふさわしい雰囲気の花壇作りを続けていきたいと思っております。



押し花で広げようふれあいの世界

● JA根室地区女性部研修会

六月十八日、中標津町ウエディングプラザ寿宴にてJA根室地区女性協議会主催の平成二十年年度JA根室地区女性部研修会が行われました。



技を行いました。

まず、講演があり押し花の魅力についてや花を使ったものだけではなく、野菜・海草などを使った作品の紹介を行ったあと、正しい花の保管方法や押し花の作り方の説明がありました。

実技に入ってから、各自持ち寄った色とりどりの花を専用キットで押し花にしてみました。押し花が完成するまでには時間がかかり、それぞれ持ち帰ってからの完成になるようで、皆さん待遠しい様子でした。

今回は出来上がっている押し花を使い、それぞれ花の配置や色合いなどを考え、2枚のハガキを作成しました。出来上がったハガキはどれも個性があり、素敵なものばかりでした。

今年の研修では、押し花を経験したことのある人も、初めて経験する人もそれぞれに楽しく学べた研修になりました。



「コスモスの里づくり」種まき

● JA根室地区女性協議会

今年も地区女性協役員・各事務局（今年度より当番制・JA中春別、JA標津）で中標津空港前にコスモスの種を植えました。

コスモスが道行く人たちの目を楽しませてくれる事でしょう、今から楽しみです。皆さんもお近くを通った際は、目を向けてみてください。



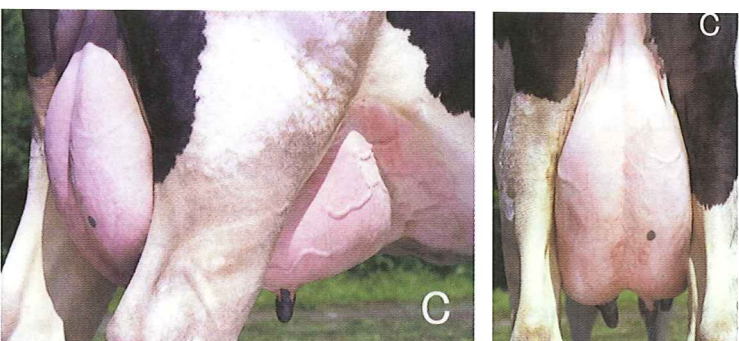
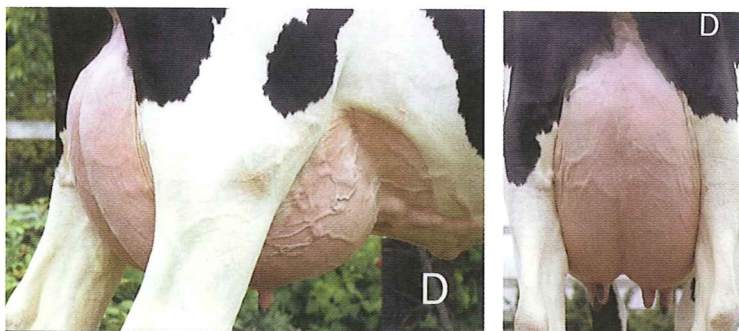
緑・花いっぱいコンテスト 作品募集

応募できる方	○農場内の庭等、JA中春別地区内のどなたでも参加でき、自薦他薦は問いません。
応募の条件	○参加者自ら、花壇等の植え込み管理一切を行っていること。 ○形式は花壇、コンテナ、農場看板周辺等、「花と緑」にある程度まとまりのあるものであれば参加できます。 ※ガーデン部門：貴方の素敵なお庭を応募ください。 ※コンテナ部門：コンテナによせた貴方のセンスを応募ください。 ※農場看板部門：花や緑で飾られた農場看板を応募ください。
参加費	○無料
審査	○審査員による厳正な審査及び一般投票(写真審査)により決定します。 一般投票には無記名にて写真・コメントを公表いたします。
表彰等	○審査発表・平成20年10月中旬頃、農協Aコープ収穫祭会場にて発表いたします。 <素敵なガーデン賞>……………賞金1万円 <素敵なコンテナガーデン賞>…賞金1万円 <素敵な農場看板賞>……………賞金1万円 <審査員特別賞>……………賞金5千円
申込期限	○平成20年9月末日
申込み	○応募用紙で参加の場合…所定の事項を記入し、コメント、カラー写真(L版)を添えて下記まで申込ください。 ※応募用紙はコピーでも構いません。(お一人様各部門一点の応募可) ○Eメールで参加の場合…題名欄に「花コンテスト」、文書欄に必要事項を記入(応募用紙参照)、画像を添付し下記Eメールアドレスへお申し込みください。 ※応募用紙・Eメールどちらで参加の場合も必ずコメントをご記入ください。 ○中春別農業協同組合 営農生産部営農振興課 女性部事務局 桑川 ☎086-0652 野付郡別海町中春別南町3番地 メールjaneinou@aurens.or.jp
作品の返却	○応募された作品は返却いたしませんのでご了承ください。
個人情報の取り扱い	○ご応募いただいた皆様の情報は、十分管理しコンテストに関する以外には使用しません。
お問合せは	○中春別農業協同組合 営農生産部営農振興課 女性部事務局 桑川 ☎086-0652 野付郡別海町中春別南町3番地 ☎0153-76-2241
主催	○中春別農業協同組合女性部

第19回 2~3オクラス(乳器)

ホルスタイン写真コンテスト結果発表

D-B-A-C



講評

まず4頭の写真を見てどの乳器もすばらしいオッパイだな～と感じました。比較ですがD牛の乳器は前乳房の付着が強く力強さがあり幅もあります又後乳房の付着がより高く幅があります。中心生靱帯も鮮明である。さらに乳頭の配置が他の乳器と比べてより正確な配置である。乳頭の向き、長さが正確である。

B牛と比較した場合B牛は前乳房の付着は滑らかではあるが、後乳房の付着の高さ、乳頭配置、間隔、向きで、D牛の乳器が勝っている！

続いてB牛の乳器とA牛の乳器の比較ですが、A牛の乳器は、前乳房の付着は強く、後乳房の幅は広さがありますが、B牛の乳器の方がより後乳房の左右バランスにおいて優れている。また、乳器全体の質感も上回っており乳頭方向も上回っている！

C牛の乳器においては、前乳房の付着は、強く乳頭配置も優れているが、他の乳器と比較した場合全体的に乳器のパワー力強さがもっと欲しい！

以上、私なりに回答させて頂きました。どうです…当たりましたか…？

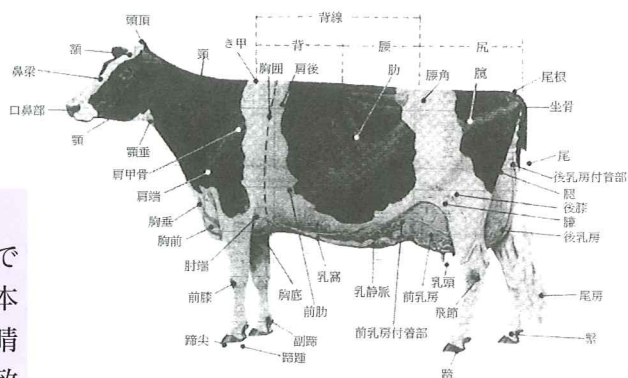
はずれた人達は…す・い・ま・せ・ん

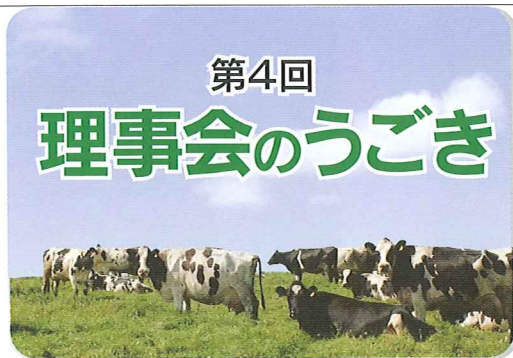
by YMD

畜産販売課畜産指導よりお知らせ

予想投票は35人の方の応募がありました。全問正解者は12人でした。抽選の結果、中西美貴さん、中西絢香さん、岡林福子さん、本田友美さん、能登美月さん、林康弘さん、細川美由紀さん、中尾晴空さん、田村博明さん、藤原誠さん以上10人の方に商品を贈呈致しますので、畜産販売課畜産指導係までおこしください。

ホルスタイン種雌牛体各部の名称





平成二十年六月十八日(水)

議案

- 一、平成二十年度理事報酬額の配分並びに支給方法について
 - 二、平成十九年度行政庁業務報告書の提出について
 - 三、機構の改正について
 - 四、職制規程の改正について
- 以下、原案通り承認

報告事項

- 一、組合員加入について
- 二、組合員の脱退予告について
- 三、北海道農協経営審査協会による内部審査報告書について
- 四、JA全国監査機構による一般総合監査の実施について
- 五、地域学校行事への寄附
- 六、平成二十年五月末営農生産関連実績について
- 七、リース契約について
- 八、平成二十年度JA中春別乳牛共進会の終了について
- 九、大家畜特別支援資金の要領について

ミルク王国からのお知らせ

ミルク王国では、ひと月毎に新メニューをご提供しています。

七月は「はちみつミルクサンデー」の登場です。レモンがほんのりと香り、さっぱりとした仕上がりになっています。七月いっぱい販売しておりますので、ぜひ一度お試しください。

六月登場の「アップルシナモンチョコサンデー」は、ご好評につき、引き続き販売しております。



(写真) *Mサイズ
左: はちみつミルク
右: アップルシナモン

5月 乳質乳価一覧表

(単位: 円/kg)

			単価	算出基礎	支乳払価	前年同期	差
乳脂肪分			720.674		28.56	25.9	2.59
無脂乳固形分			455.812		39.57	35.88	3.69
補給金			4.719		4.72	4.55	0.17
計画チーズ奨励金							
乳質単価	生菌数	ランク1	2	324,961,258.1kg	3.73	3.72	0.01
		ランク2	0	6,121,659.9kg			
		ランク3	-3	175,670.8kg			
	体細胞数	ランク1	2	283,609,840.6kg			
		ランク2	1	26,286,095.0kg			
	乳質向上 特別対策	ランク1	-2	3,025,927.8kg			
合計					76.58	70.12	6.46

5月分乳代支払単価

項目	単価(円)/kg	
乳脂肪分①	28円56銭	
無脂乳固形分②	39円57銭	
補給金③	4円72銭	
チーズ奨励金④		
脂肪率	全道	3.96%
	農協	4.03%
無脂固形分率	全道	8.68%
	農協	8.62%
成分乳価	全道	72円85銭
①+②+③+④=⑤	農協	73円02銭
乳質乳価⑥	全道	3円73銭
	農協	3円81銭
乳代合計	全道	76円58銭
	農協	76円83銭
⑤+⑥	差異	0円25銭

身近な樹木に触れ、名前を知り自然ともっと仲良くなろう



ハシドイ(瀬栖:ドスナラ)

北海道に自生するライラックの仲間。高さ10~20m、太さ20~30cmになる落葉広葉樹。開花は7月でライラックよりも遅い、黄色味がかった白い花がこの木の特徴。分布は北海道、本州、四国、九州の山地に生える。

ハシドイの名前は、初夏の頃この木の枝の先端に真っ白な花がたくさん集まって咲くので、これを「はしつどい」と呼び、つまって「はしどい」になったのではないかと考えられている。それほど目立った円錐形の大きな花序をもつ野生の樹木はそれほど多くない。ハシドイの名はこうした特長をよくいい表している。

ニューフロンティアファームの樹木図鑑より転載・抜粋

編集後記

▼六月に入り農協総会、共進会、そして各地区の小学校運動会と行事の多い月でした。豊原、美原小学校は、当日、悪天候だったため一日遅れての運動会開催となりました。天候も回復し、まさに「運動会日和」でした。また、平成二十年度で、五十年という長い歴史に幕を下ろすということもあり運動会当日は、児童、保護者だけでなく多くの卒業生も懐かしい母校へ足を運ばれたのではないのでしょうか。各地区ともグラウンドを元氣一杯に走り、競技に汗を流す児童の姿、我子を応援する保護者、ご家族の姿が目立ちました。

▼六月も下旬に入り良質な粗飼料確保のため一番草の収穫が一斉にスタートしたかと思えます。なかなか思うように太陽が顔を出してくれず毎日、天気予報をみながらの作業が昼夜を問わずに続いていることではないでしょうか。日々の仕事に加え収穫作業が重なり疲労、負担が蓄積されてきていることと思います。くれぐれも事故にはお気をつけ下さい。

▼第三十四回中春別農業協同組合通常総会が開催され、平成十九年度の事業が全て終了となりました。昨年度も様々なことがありましたが、組合員皆様のご協力のもと成功できたことに對しまして感謝申し上げます。四月より二十年度事業もスタートしておりますが、今後も皆様のご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

アドレス <http://www.ja-nks.jp>